様式第１号（第１０条関係）

2023年度業務実績報告書

提出日 2024　年 1 月 5 日

１．職名・氏名　　准教授　金粕仁美

２．学位　　学位　修士、専門分野　看護学、授与機関　福井県立大学、授与年　2016年3月

３．教育活動

⑴講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 小児看護学概論（1単位　毎年開講）　学部2年次生（2022年～）
②内容・ねらい 子どもと家族を取り巻く社会の変遷を概観した上で、小児医療・看護の現状について学ぶ。また、子どもを理解するための発達理論や子どもの成長発達の特徴と支援について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 子どもの成長発達や発達理論に関しては、小児看護学や小児看護学実習でも活用できるように、子どもの成長発達の特徴をまとめたレポート（穴埋め式）を作成し、教科書を基に事前学習をしてから授業に取り組んでもらうようにした。講義は主にこのレポート内容に基づいて行い、発達段階ごとの動画を取り入れることで学生の学びを深められるように工夫した。小児医療における倫理・医療安全に関しては、講義に加えて事例を用いたグループワークを取り入れ、学生が具体的に倫理や医療安全について考えられる機会を持てるように工夫した。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 緩和ケア論（1単位　毎年開講）　学部2年次生（2023年）（オムニバス）
②内容・ねらい 緩和ケアの概念を理解するとともに、緩和ケアを提供するうえで必要な基本的知識と技術を教授する。残された時間が限られた人と家族の心理を理解し、苦痛の緩和を考える。さらに、生きることを考える死生観も養う。この授業では領域横断の科目とし、成人期および老年期における終末期の特徴と緩和ケア、小児における終末期の特徴と緩和ケア、精神疾患を持つ人の緩和ケア、在宅における緩和ケアをオムニバス形式で講義する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 緩和ケア論のうち、小児における終末期の特徴と緩和ケアの講義を1コマ担当した。小児看護における終末期看護の特徴や意思決定支援などについて講義を行った。また、子どもホスピスや子どもの緩和ケアを行っているクリニックを紹介し、各施設で実施されている緩和ケアについて動画を用いて紹介した。さらに、周産期（新生児）緩和ケアについても講義し、病院で行われているケアの実際について紹介した。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 小児看護学（2単位　毎年開講）　学部3年次生（2015年～）
②内容・ねらい（自由記述） さまざまな発達段階・健康障害とその段階・生活過程にある子どもに対し、適切な看護を行うための基本的な考え方と看護技術について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 小児看護に必要な考え方と看護技術を身につけるために、アセスメントから看護計画までの看護過程の展開、及び小児看護技術演習の2部構成で展開している。看護過程の展開では、小児看護学実習で受け持つことの多い疾患を中心に3事例展開しており、うち1事例では子どもの発達段階に合ったプレパレーションの計画を具体的に立案している。少人数のグループワークを多く取り入れ、他の学生との意見交換を通して自身の考えを発展できるようにしている。技術演習に関しては、小児看護技術レポート（穴埋め式）を作成し、教科書を基に事前学習をしてから取り組んでもらうようにしている。乳児や幼児の人形を用いた技術演習を行ったり、

輸液療法を受ける子どもの体験などを体感してもらったりすることによって、治療を受ける子どもの気持ちを理解し、子どもとの関わり方について具体的に考えられるように工夫している。また、演習後にミニレポートを取り入れることにより、自身の看護技術を振り返る機会を設けている。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
小児看護実習（2 単位　毎年開講）　学部 3 年次生（2015 年～）

②内容・ねらい
子どもの成長発達、及び健康障害が子どもの身体･こころ･社会関係に及ぼす影響を理解し、より健康に育まれるよう子どものもてる力を活かしながら看護を実践し、評価する看護実践能力の修得を到達目標とする。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
小児看護学実習は、4～5 日間の小児病棟／医療型障害児入所施設での実習、及び 1～2 日間の保育園／福祉型児童発達支援センターでの実習を行っている。小児病棟／医療型障害児入所施設での実習では、入院／入所する乳児期から思春期・青年期の子どもを 1 名受け持ち、アセスメントから看護評価までの看護過程の展開を行っている。個別指導やグループカンファレンスなどを多く取り入れ、3～4 人の学生に対して 1 名の教員が継続してサポートするようにしている。また、臨床指導者等とのカンファレンスも取り入れており、より臨床に即した助言を得られる機会となっている。保育園／福祉型児童発達支援センターでの実習については、実習のねらいに沿って見学実習し、臨床指導者とのカンファレンスや学内でのグループワークにより学びを深められるよう工夫している。学生が主体的に自己の看護実践能力を高めていけるように、実習前には自己課題を明確にし、実習後には自己評価と今後の課題の設定ができるように個別面談を行っている。2023 年度からは、Laerdal Medical の Sim Junior を使用して、6 歳男児の術後の観察とアセスメントの演習を、小児病棟／医療型障害児入所施設の実習前または後に実施した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
小児看護発展セミナー（2 単位　毎年開講）　学部 4 年次生（2018 年～）

②内容・ねらい
既習の小児看護学関連の学習内容を踏まえた上で、学生自身がテーマを選択し、小児看護の専門性を探求する。具体的には、子どもとその家族に関連するテーマを選択し、医療・保健・福祉・教育等の連携の視点で文献検討を行う。また、文献検討の結果をプレゼンテーションし、グループメンバーによるディスカッションを通して学びを深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
学生自身がテーマを選択し、学生主体で文献検討に取組めるように工夫している。またプレゼンテーションや、学生同士のディスカッションを複数回取り入れるようにし、他の学生との意見交換を多く行うことで学びを深められるようにしている。今年度は、6 名の学生が受講した。University of Findlay の短期留学生とのディスカッションの時間を持ち、日本とアメリカの小児医療の相違点や類似点について学びを深められるようにした。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
卒業研究（3 単位 毎年開講）　学部 4 年次生（2017 年度～）

②内容・ねらい
自ら探求する態度と、研究能力の基礎を身につけることを目的としている。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
個別指導での文献検討や計画検討をおこないながら、研究方法の学習や研究課題の明確化ができるように支援している。研究計画書作成後は、学生が問題なく分析や論文執筆や研究発表をすすめられるよう個別にメールや面談などで指導をおこなっている。今年度は 4 名の学生を担当した。

(2)その他の教育活動

・バドミントン部顧問（2019 年～）

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【0 本】

②学術論文（査読あり）

【0 本】

③その他論文（査読なし）

【0 本】

④学会発表等

1. Hitomi Kanekasu, Hiroko Watanabe, Risk factors of postpartum depressive symptoms among Japanese primiparous women: A longitudinal study, 33rd International Confederation of Midwives Triennial Congress, 2023.6.11-14, Bali, Indonesia

2. 上谷祐子, 金粕仁美, 医療的ケアが必要な乳幼児期の子どもを養育する母親が気持ちを上向かせるきっかけとなった状況や出来事 出生から在宅移行までの期間に着目して, 第 30 回日本家族看護学会学, 2023.9.9-10, 大阪

【2 件】

⑤その他の公表実績

【0 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】

・2023～2025 年度　科学研究費助成基金基盤 C　研究代表者　360 万円
・2018～2023 年度　科学研究費助成基金若手研究　研究代表者　260 万円

(3)特許等取得

(4)学会活動等

・日本看護研究学会近畿・北陸地方会　広報委員会（2018 年～）
・Archives of Women's Mental Health, Reviewer（2023 年）
・第 21 回日本生殖看護学会学術集会　実行委員（2023 年 9 月 3 日）
・第 30 回日本家族看護学会学　実行委員（2023 年 9 月 9 日・10 日）
・第 37 回日本助産学会学術集会　シンポジウム 15 演者（2023 年 10 月 9 日）

５．地域・社会貢献活動

・福井県小児糖尿病サマーキャンプ（2016 年～） ・国際認定ラクテーションコンサルタント（認定 2012 年、2017 年、2022 年） ・新生児蘇生法「一次」インストラクター（認定 2015 年、2020 年、2023 年）

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・フィンドレー大学学国際交流 WG：メンバー（2016 年～） ・23 期生学年担任（2023 年） ・カリキュラム検討委員会：委員（2022 年～）
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など